

會報

平成8年3月15日 発行

第 31 号

関東地区整形外科勤務医会

発行所：〒105 東京都港区虎ノ門2-2-2
虎の門病院整形外科内
関東地区整形外科勤務医会
☎ (03) 3588-1111
FAX (03) 3582-7068
事務局：代表 河端正也
編集：会報編集委員会

巻頭言

入会のメリットは？

国家公務員等共済組合連合会

三宿病院副院長 河端正也

昭和59年の関東地区整形外科勤務医会発足より13年目になり、この間事務局も、国立小児病院（村上實久先生）、神奈川県立厚木病院（大森薫雄先生）と移り、平成元年から私が引き受けて参りましたが、本年4月より国立霞ヶ浦病院（関 寛之先生）に移ることになりました。最後の会報をお届けするに当り、ご挨拶をかねて一言申し上げます。長い間ご支援ありがとうございました。引き続き次の事務局も宜しく願います。

勤務医会活動をサポートするに当り、いつも腐心してきたのは、如何にして会員を増やすかということでした。これまで志を同じくする人達の努力のお蔭で、学会でも勤務医のidentityが認められ、学会の運営も大学・勤務医・開業医の3本柱で行われるようになったのは喜ばしいかぎりですが、何よりも有力なのは、高い会の組織率を背景に持つことです。会員であることのメリットがはっきりしていれば、入会勧誘も楽なのですが、メリットと組織率は「鶏と卵」のようなものだと思います。現在ですでに、学会の理事会、殆どの委員会に、勤務医会の代表が数名づつはいて活躍していますが、組織率が上がるほど、発言力は強くなります。勤務医の意向を学会の運営に反映させることが出来ます。その結果は会員のメリットにつながるでしょう。

日本医師会にも勤務医会組織があり、日医ニュース（825号、96-1-20）によると、日医の医師数は全医師数の59.6%ですが、13の都道府県で勤務医会員の比率が50%を越えているそうです。当初あった入会におけるメリット論は、最近では後退してきており、その大きな要因は医療状況のさまざまなハネ返り

主要目次

1. 巻頭言 …… 入会のメリットは？ …… 河端 正也 …… 1
2. 日本整形外科勤務医会幹事会 …… 2
3. 関東地区整形外科勤務医会臨時総会 …… 3
4. 第21回学会認定教育研修会講演要旨 …… 3
5. 事務局移転のお知らせ …… 4
6. 年会費納入率 …… 5
7. 平成8年度総会・第22回学会認定教育研修会予告 …… 5
8. 病院紹介 …… 6
9. 新入会員紹介 …… 8
10. 事務局日誌・編集後記 …… 9

が、勤務医にもおよび、いつまでもそれにこだわってはいられないと、認識しはじめた結果であろうとの解釈です。また、平成4年に定款改正により、東京都では13医科大学のうち10大学が都医師会に加盟しており、残りの3大学も平成8年には加盟予定だそうです。このことは、大学にも、開業医にも、勤務医という立場を自覚して動き初めている人達が多数存在し、さらに増えて行くことを意味しています。厚生省の卒後研修システムの中でも、勤務医が勤務している数多くの病院が、研修指定病院となり、施設として、指導医師として、大きな役割を担うこととなります。その横の繋がりとして勤務医会があるのです。大学を離れ、関東各地の病院に展開している勤務医が、出身医局の枠を越えて連帯し、学会運営、保険診療におけるさまざまな問題の改善、卒後研修システムに重要な役割を果たそうではありませんか。

勤務医会内にも委員会を設置の方向に！

—— 日本整形外科勤務医会幹事会 ——

日本整形外科勤務医会幹事会が、1月18日、認定医試験会場となった大阪ロイヤルホテルにおいて開催された。出席者は、東 晃（会長 東京）、安達長夫（広島）、石名田洋一（事務局 埼玉）、稲垣善幸（愛知）、上尾豊二（島根）、大井利夫（栃木）、大谷 清（学会理事 東京）、大森薫雄（学会監事 神奈川）、片岡 治（兵庫）、河端正也（東京）、吉川暢一（鳥取）、栗原 章（兵庫）、司馬正邦（東京）、田島 寶（静岡）、立松昌隆（奈良）、谷口良康（鹿児島）、田村 清（兵庫）、長井 侃（北海道）、蓮江光男（学会理事 東京）、船山完一（宮城）、町田拓也（長野）、山浦伊姿吉（東京）、山田勝久（学会副理事長 神奈川）、山本美雄（大阪）の24名であった。

7年12月31日現在の会員数は1322名であるが、年会費は12月18日現在 675,000納入されている。これと繰越金との合計が122万円余あったが、会報発行費、人件費などで、すでに30万円弱に減っている。この規模で年3回の会報発行のほか、諸々の勤務医会としての活動をするのは困難である。したがって、年会費値上げはやむを得ないだろうとの意見が圧倒的であった。その上げ幅については、一部に2,000円ぐらいの年会費では何も出来ないのではないかと、何回にも分けて値上げするよりも今回もっと上げ幅を広くしてはとの意見もあったが、1,000円にとどめることになった。また、納入法も、地域ごとの実情に合うように、事務局では施設単位、個人単位のいずれにも対処出来るようにしたい、とのことであった。前年度、前前年度とさかのぼって未納会費の請求では、金額をはっきり表示して欲しいとの希望が強かった。

学会には各種委員会があり、理事長の諮問にこたえるシステムになっている。また、臨床整形外科学会でも、学会の各委員会に相当する委員会をもっている。理事会をはじめ、学会の各種委員会も一部を除いて、大学・勤務医・開業医の三者からの代表から構成されているのであるが、何か問題が持ち上がったときに、「勤務医会の意見はどうか？」と諮問を受けることが少なくない。各種委員会に代表を送り込んでいるから問題ないということではない。やはり、勤務医会でも独自の委員会をもち、普段から要請に応じて意見を出せるようにしておくべきであるとの問題提起があった。これに対して、必要性は分かるが、数多くの委員会をつくっても意味がないし、濼繁に委員会を開くのも無理なので、最小限度にすべきだとの意見も出された。結局、教育研修委員会、社会保険委員会を設置する方向で、人選を含めた準備に入ることになった。（文責 河端）

日本整形外科勤務医会会費値上げ承認さる

—— 関東地区整形外科勤務医会臨時総会 ——

平成7年12月2日、住友化学・参宮寮において開催された臨時総会で、年会費1000円の値上げが承認された。日本整形外科勤務医会の年会費は1000円であり、関東地区整形外科勤務医会会員は年会費3000円を収めているが、そのうちから1000円が、事務局を通じて日本整形外科勤務医会事務局に納入されていた。勤務医会の充実は益々必要と考えられている現在、年1000円の会費では到底思うような活動が出来ないので、値上げをしたいとの事務局の意向が、平成7年10月11日に軽井沢で開催された日本整形外科勤務医会幹事会に示され、承認されていたものである。値上げ幅は1000円であり、平成8年度(3月1日～)からとなるので、8年度関東地区総会(6月1日予定)における議決では間に合わないため、今回の提案となった。したがって、平成8年度からは、関東地区会員は年会費として4000円を納入して頂き、その中から事務局が2000円の日本勤務医会会費納入を代行することになる。ご協力をお願いします。

従来、年会費納入のお願いは、3月の会報とともに振り込み用紙の同封によって致しておりましたが、近く事務局も変わりますので、次号の発送にそえて致します。

第21回日本整形外科学会認定教育研修会講演要旨

臨時総会に引き続き、二講師による教育研修会が開催された。多数の参会者をえて、活発な質疑応答があり、盛会裡に終了し、忘年会をかねた懇親会に移行した。

足の外科最近のトピックス

— スポーツ外傷を中心に —

東京医科歯科大学整形外科
助教授 山本晴康

アキレス腱断裂の治療法は従来観血的に治療され、患者の満足度は高かったが、癒痕に不満をもつものが多かった。近年保存的療法が行われるようになったが、その結果をみると、再断裂の割合は低く、日常生活への復帰と運動への復帰は早く、従来行われてきた観血的療法と変わらないというもので、保存的療法が注目を浴びるようになった。一方観血的療法では保存的療法より早期の日常生活あるいは運動復帰を可能にするために、早期からの荷重や可動を可能にする強固な縫合法の開発や術後早期からの筋力、可動域訓練が行われるようになった。

足関節外側靭帯損傷に対しては従来日本では観血的に修復されることが多かったが、ギプス固定や運動療法の良い成績が報告され、保存的療法が見直されている。すなわちギプス固定や運動療法でも良好な足関節の安定性が得られ、また入院・手術という負担がないことや金銭的負担が少ないという利点がある。また運動療法では早期スポーツ活動

への復帰が可能であると報告されている。足関節外側靭帯損傷には軟骨損傷を合併することがあり、繰り返す外傷で損傷の程度が進行するという報告があり、重度の損傷や繰り返す捻挫では軟骨損傷を念頭に置き、MRIや関節鏡などの検査を行う。

足関節外側靭帯不全では従来行われていたWatson-Jones法やChistman-Snook法の成績が必ずしも良好でなくこれは再建靭帯の設置位置と再建材料によるのではないかと報告がある。設置位置については前距腓靭帯では下方の部分が踵腓靭帯では前方の部分が等長性が良好であり、これを念頭においた再建術で良好な結果が得られたという報告がなされている。再建材料としては自家組織、他家組織、人工靭帯が使用されている。自家組織としては長・短腓骨筋腱、大腿筋膜、足底筋腱、半腱様筋腱、薄筋腱、長掌筋腱が使用されている。腓骨筋腱はこれまでよく使用されてきたが、外側の安定性に対する靭帯に次ぐ第2の構成体であるということと採取による外返し筋力の低下の危惧から最近では使用されなくなってきている。大腿筋膜、半腱様筋腱、薄筋腱は膝十字靭帯の再建に使用されており再建材料としては良好で、採取により失われる機能が少ないことはこれまで

実証されている。欠点はなんでもない下腿、大腿に手術侵襲が加わり、癒痕が残ることである。他家組織が自家組織を犠牲することがない点は最大の利点であるが、ウイルス感染の危険性がある。人工靭帯は膝前十字靭帯再建術で使用されてきたが、必ずしもその成績は良好でない。足関節でもLeed-Keio 靭帯が使用され、良好な成績も報告されているが、長期の経過をみる必要がある。

足底腱膜は足アーチの形成と母趾を背屈した際の巻上げ機能があり、繰り返す踏み返し着地の際足底腱膜に加わるストレスで足底腱膜炎が生ずる。治療としては安静、足底板の処方、NSAIDの投与、足底腱膜の部分切離、足底神経の剥離などがある。

手の外科最近のトピックス

—最小侵襲手技を中心に—

済生会神奈川県病院整形外科
部長 佐々木 孝

手の外科領域では、最近10年間にいくつかの大きな進歩がみられた。腱の治療の領域では術後早期あるいは超早期運動の有効性が認識され、屈筋腱縫合後のKleinert法や、伸筋腱縫合後の石黒法などとして臨床にも応用されるようになった。神経の領域では研究は分子レベルにまで及び、臨床とはやや遠ざかった感もあるが、絞扼神経障害に対する理解が進み、double lesion neuropathyの概念が受け入れられるようになった。骨関節の

領域では中手骨や指節骨にも陥没骨折が多発することが知られるようになり、また指関節側副靭帯の修復が積極的に行われるようになった。

最小侵襲手術手技は言葉あるいは概念としては新しいが、最小の侵襲で最大の効果をあげようとする努力を概括するものであり、外科系の医師が従来からすべからく心掛けてきたことである。整形外科領域ではX線透視下の骨折治療や関節鏡視下の手術が早くから行われており、この分野の草分けの科の一つに数えられる。手の外科領域においてはatraumaticの概念が30年以上前から普及していたが、最小侵襲といえる普及した手技は経皮的ピンニングのみであった。内視鏡の進歩によって手関節内病変の観察・治療が鏡視下に行われるようになり、母指MP関節側副靭帯損傷までも鏡視下に治療しようとする報告もある。手根管症候群の治療も鏡視下に行われるようになり、術後の創部痛が軽減され、治療期間も短縮された。骨折の経皮的治療は、従来の単純な経皮ピンニングの域を脱し、隣接関節の運動制限を惹き起こさないように配慮した固定法が中心となってきている。その代表は中手骨骨折にたいするFoucher法や、基節骨骨折にたいする奥津法などである。指節骨陥没骨折も経皮的に骨髄内から陥没骨片を圧出す方法がとられるようになり、関節に外傷以上の損傷を与える危惧がなくなった。腱の領域でも退縮した腱端の発見に内視鏡を用いる試みが行われている。

事務局移転のお知らせ

関東地区整形外科勤務医会事務局は、平成元年以来虎の門病院にありましたが、平成8年4月から下記のごとく移動します。よろしくお願い致します。

記

旧事務局：〒105 東京都港区虎ノ門2-2-2 虎の門病院
整形外科内 責任者 河端 正也（平成8年3月まで）
新事務所：〒300 茨城県土浦市下高津2-7-14 国立霞ヶ浦病院
整形外科内 責任者 関 寛之（平成8年4月より）
TEL. 0298-22-5050
FAX. 0298-24-0494（庶務課）

ご注意 平成8年度総会、第22回教育研修会関係の業務はひきつづき旧事務局（虎の門病院）において行います。

年会費の納入をよろしくお願いします。

平成7年度の会費納入率は、平成8年2月末日現在次のようになっています。会員の皆様からの年会費により勤務医会は活動しており、納入率が上がればさらに有意義な企画も可能になります。

日本整形外科勤務医会を、核として支えているのが関東地区勤務医会ですから、その年会費の納入率は全国的な影響があります。会費の納入は、個人でも施設単位でも結構ですし、過去の未納分については、これまで請求申し上げたことはありませんが、お問い合わせがあればお知らせ致します。

平成7年度会費納入率

都県名	会員数(人)	会費納入者数(人)	%
東京都	136	79	58
神奈川県	108	85	79
千葉県	42	21	50
埼玉県	40	26	65
群馬県	24	13	54
茨城県	26	16	62
栃木県	9	5	56
山梨県	7	1	14
計	401 (勤務先不明9)	246	61

予 告

平成8年度関東地区整形外科勤務医会総会 第22回 日整会認定教育研修会

関東地区整形外科勤務医会では、下記のごとく総会及び教育研修会を開催致します。なお、研修会の出席予約は要りません。認定医以外の先生方もお誘い合わせの上、ご参加下さい。会終了後、懇親会も予定しています。

記

日 時：平成8年6月1日(土)
15:00~18:00
会 場：住友化学・参宮寮(地図参照)
〒151 東京都渋谷区代々木4-1-3
TEL.03-3320-3994

幹事会：15:00~15:20
総 会：15:20~16:00
教育研修会：16:00~18:00

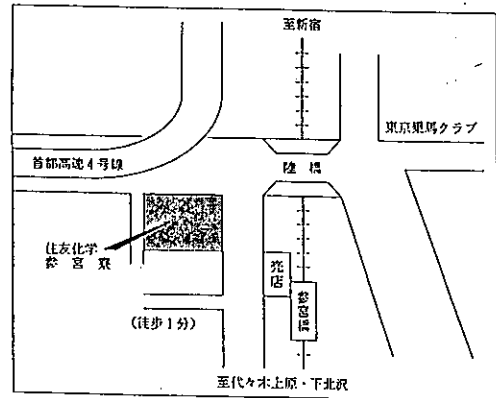
- (1) 三次元CTから見た股関節疾患の病態
(16:00~17:00) (N1単位申請中)
講師：社会保険埼玉中央病院
整形外科 医員 泉田 良一
- (2) RAに伴う肺障害と薬剤性肺障害
(17:00~18:00) (N・R各1単位申請中)
講師：都立駒込病院
アレルギー膠原病科医長 猪熊 茂子

会 費：1題2000円

懇 談 会：ひきつづき18:15~より同会場において行います。

(共催 住友製薬)

住友化学工業(株)参宮寮案内図



東京 — (中央線) 20分 — 新宿 — (小田急線) 10分 — 参宮線

● 駐車場はございません。

◆ 病院紹介 ◆

下記の項目順にしたがって、400字詰原稿用紙2～3枚におまとめください。

1. 病院名
2. 病院所在地、郵便番号、電話番号、FAX番号
3. スタッフ（全員）
4. 外来担当一覧表
5. 月間、週間行事（勉強会、カンファレンス）
6. 科の特色（特に力を入れている領域）
7. 地区医師会との協力はどの様にされていますか？
8. その他、勤務医会にたいする希望など。

原稿送付先：〒300 茨城県土浦市下高津2-7-14

国立霞ヶ浦病院 整形外科内
関東整形外科勤務医会事務局
会報編集委員会内
TEL 0298-22-5050
FAX 0298-24-0494（庶務課）

[69] 都立大久保病院

〒160 新宿区歌舞伎町2丁目44-1

電話 03-5273-7711

FAX 03-5273-7748

スタッフ：三笠元彦（整形外科部長）、吉峰史博（リハビリテーション科医長）、大谷俊郎（整形外科医長）、岩本靖彦、片桐 仁、君島康一、岡井清士（院長）

外来： 午前 午後

月曜日 三笠 吉峰

火曜日 大谷 片桐 大谷*

水曜日 大谷

木曜日 三笠 岡井

金曜日 岩本 君島

土曜日 交替制

注) 外来は初診、再診とも予約制

診療予約専用電話：03-5285-8811

*火曜日の午後は、スポーツ・膝外来

行事：月間、週間行事：毎週月曜午後3時 カンファレンスと総回診

特色：当科の特色は、専門性の高い、経験豊富なスタッフがそろっている上、3D-CT、MRI等の診断器機や、最新の関節鏡、移植手術にも対応出来る無菌的手術室、リハビリテーション設備等のハードウェアも完備しており、

身近な病院でありながら、高度専門医療が提供出来る点です。特に力を入れている領域と、専門分野は次の通りです。

肩関節、鏡視下手術、手の外科：三笠元彦、片桐 仁

股関節、足関節、骨折：吉峰史博

膝関節、鏡視下手術、スポーツ：大谷俊郎

脊椎脊髄、末梢神経、感染症：岩本靖彦、君島康一、岡井清士

医師会：当院では、原則として外来初診を全て紹介予約制としているので、地区医師会との協力、連携無しには診療そのものが成り立ちません。周辺地域の医師会の先生方に当院の性格を理解して、うまく利用して頂く様努力しています。

その他：当院では1993年の開設以来、地域医師会の先生方から大学病院まで、幅広い診療連携体制を取っています。例えば大学病院を含む多くの病院や診療所から、月に100件以上のMRIの依頼があり、夜間にも稼働して検査待ち日数を最小限とする等の努力をしています。病院は新しくきれいで、患者さんにも好評です。勤務医会の先生方にも当院の性格を御理解頂き、患者の紹介や検査の以来等、どんどん御利用頂きたいと思えます。

[70] 横浜保健生協戸塚病院

〒245 神奈川県横浜市戸塚区汲沢町1025-6

電話 045-864-1241

FAX 045-871-0803

スタッフ：森 昌之（S.51）部長
稲坂理樹（S.63）

外来：月曜日 森

火曜日 稲坂

水曜日 森

木曜日 森

金曜日 稲坂

土曜日 森or稲坂

その他2人で4単位の診療所外来あり

行事：カンファレンスは、月曜日午後実施、勉強会としては、2週に1回抄読会を行っている。2人では、寂しいのと、大変な事の両方で、最近になりPTにも参加してもらっている。

特色：特になくオールラウンドを自称しているが、強いて言えば、森は手の外科、稲坂はSpine

を好んでいる。

師会：森は地区医師会のメンバーにはなっているが、会の行事に参加することはほとんどなく、近医より入院や手術の依頼がある時に協力している。

その他：入院のベッド数は27、外来の患者数は30～40であり、年間の手術件数は150～200という小規模の病院であるが、幅広い手術が実施されている。卒後2、3年で6ヶ月以上の研修を希望する人には門戸を開いています。

教育研修会では整形外科関連分野での他科の先生の話が聞いてみたい。

[71] 松戸市立病院

〒271 松戸市上本郷 4005

電話 0473-63-2171

FAX 0473-66-4472

スタッフ：篠原寛休（院長）、藤塚光慶（部長）、矢島敏晴（理学療法部長兼任）、丹野隆明、品田良之、篠原 裕、神川康也、早川 徹、新初正明

外来： 新 患 再 来
月曜日 篠原(院長)、藤塚 早川、篠原(裕)
小児整形：品田
火曜日 矢島、篠原(裕) 丹野、新初
脊椎外科：丹野
水曜日 丹野、神川 矢島
リウマチ：藤塚 先天股脱：篠原(院長)、品田
木曜日 担当交替制 側彎症：小林(第4木曜日)
金曜日 神川、品田 再来：篠原(院長)
リウマチ：藤塚 手の外科：保坂

行事：月) 午前レントゲン カンファレンス

午後小児整形外科外来

火) 午前8:30～9:00院長回診

午後 脊椎外科外来

水) 午前8:00～8:30抄読会

午後 先天股脱外来、特殊検査

4:00～6:00症例検討会

木) 手術 午後 側彎症外来

金) 手術 午後 手の外科外来及び手術

特色：1) 先天股脱検診：昭和46年より松戸市全体で、行政、医師会、当科の協力で始め途切れることなく続けられたため、豊富なデータが得られた。それにより、松戸

方式の検診法を確立した。

2) 変形性股関節症：人工股関節などの手術が年間、数十例を越える。

3) 関節リウマチ外来：昭和47年より始られ、人工膝関節を含め、症例が豊富である。

4) 脊椎、脊髄外科：当科研修医の必須科目の一つであり、神経内科からの手術依頼も多く、近年、ますます、充実している。

5) 小児整形外科：新生児医療センターの存在により内反足などの症例が多い。

6) 外 傷：救急部を介しての、多発外傷が多い。

医師会：昭和45年より、市内の整形外科開業医の方々と、松戸整形外科医会を結成し、年に数度の勉強会、懇親会を続けて来たため、非常に良好な病診連携を保たれている。

希望：勤務医が、実際に医療に貢献している割りには、発言力がまだ乏しいように思う。経済効率のみから、公的病院廃止の意見が聞かれる昨今、当勤務医会の果たすべき役割は、非常に大きい。私利私欲にとらわれない、強いリーダーシップが医療界には、不可欠であり、当会に期待したい。(文責 藤塚光慶)

[72] 国立習志野病院

〒275 千葉県習志野市泉町 1-1-1

電話 0474-73-1281

FAX 0474-78-6601

スタッフ：竹内 孝(千大 S.32卒)
村山憲太(千大 S.38卒)
湯山琢夫(千大 S.56卒)
徳永 誠(千大 H.3卒)

外来： 新 患 再 来
月曜日 村山 竹内、湯山
水曜日 竹内 村山、徳永
木曜日 小児外来 (竹内他1名)
金曜日 湯山 竹内、村山
火曜日 手術
水曜日 検査
木曜日 手術

行事：月 症例検討会、回診

火木 手術後の検討会

木 抄読会(隔週)

特色：脊椎外科、手の外科、関節外科、小児外科

医師会：不定期に症例検討会を開いている。

その他：

- 西部支部会（国立癌センター東病院、国保松戸病院、国立国府台病院、社会保険船橋中央病院、川鉄病院、習志野第一病院、当院等）があり、隔月に症例検討会を行っている。
- 県下国立病院で連合研究会を開き、月1回各科の症例発表会を行っている。
- 勤務医会の関心が薄いので、色々な面で大変と思いますが、年に1～2回症例検討会（失敗例を含めて）を開ければと思います。
- 認定制度についても、気軽に意見を述べる機会があれば、よいと思います。

[73] 社会保険群馬中央総合病院

〒371 前橋市紅雲町1-7-13

電話 0272-21-8165

FAX 0272-24-1415

スタッフ：常勤 長谷川惇、小鮎保雄、金子洋之、大淵智己、神戸克明、田中信幸
非常勤 木村雅史

外来：月曜日 長谷川、小鮎、金子

火曜日 金子、大淵、（長谷川）

水曜日 長谷川、大淵、神戸

木曜日 長谷川、神戸、田中

金曜日 木村、小鮎、大淵

行事：術前術後カンファレンス

毎週月 AM8:00～8:45

特色：足の外科、小児整形外科、膝の外科、スポーツ外科

医師会：教育研究講演の共催、体協を通じてのスポーツ外科の協力

その他：特にありません。

[74] 浦和市立病院

〒336 埼玉県浦和市三室2460

電話 048-873-4111

FAX 048-873-5451

スタッフ：部長：藤田 享介（脊椎）

医長：丸岩 博文（脊椎）

〃：宮坂敏幸（膝関節）

医員：森岡 秀夫（腫瘍）

〃：井幡 巖（手、一般）

〃：柏木 忠範（一般）

外来：月曜日 藤田、宮坂、柏木（装具外来）

火曜日 初診のみ（交代）

水曜日 藤田、丸岩、森岡（装具外来）

木曜日 宮坂、井幡、柏木

金曜日 丸岩、森岡、井幡（装具外来）

他に形成外科外来を2回/月おこなっている。

行事：毎日早朝X-Pカンファレンス

月曜 病棟、リハビリカンファレンス

総回診

手術は、月（午前）、火、木、金（午前、午後）

検査は、月、水

第4月曜に4病院（浦和市立、埼玉中央、国立埼玉、国立東埼玉）及び開業Dr.との合同カンファレンス

特色：当院の規模は、病床数546床、1日平均外来約1,400名で、地域の公的中核病院として機能している。

整形外科の外来は、1日約260名、入院は原則的に手術患者のみであるが、整形病棟（51床）及び小児病棟、オープン床を利用して年間800例近くの手術件数をこなしている。

慢性疾患が中心で特に脊椎外科に力を入れている。又、教育研修病院として平成8年度は2名の整形外科レジデントが加わることになっている。

医師会：病診連携システムにより、地元整形外科医や他科開業医からの紹介患者も多い。

又、年に4回、浦和市医師会との症例検討会をおこない交流を深めている。

新入会員

（五十音順）

石井 潤 横浜通信病院

〒221 横浜市神奈川区西神奈川1-13-10

TEL 045-324-3314

植松 紘一 太田総合病院

〒210 川崎市川崎区日進町1-50

TEL 044-244-0131

白本 順一 J A 茨城県厚生連水戸協同病院

〒310 茨城県水戸市宮町3-2-7

TEL 029-231-2371

榎本 晃 平塚共済病院
〒254 神奈川県平塚市追分9-11
TEL 0463-32-1950

岡本 弦 鹿島労災病院
〒314-03 茨城県鹿島郡波崎町土合本町1-9108-2
TEL 0479-48-4111

北村 信人 聖路加国際病院
〒104 東京都中央区明石町9-1
TEL 03-3541-5151

絹笠 友則 日立総合病院
〒317 茨城県日立市城南町2-1-1
TEL 0294-23-1111

久保 実 昭和大学藤が丘病院整形外科
〒227 神奈川県横浜市青葉区藤が丘1-30
TEL 045-971-1151

高畑 武司 伊勢原協同病院
〒259-11 神奈川県伊勢原市桜台2-17-1
TEL 0463-94-2111

竹山 信成 湯河原厚生年金病院
〒259-03 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上438
TEL 0465-63-2211

辻 壮一 聖路加国際病院
〒104 東京都中央区明石町9-1
TEL 03-3541-5151

中澤 亨 鹿島労災病院
〒314-03 茨城県鹿島郡波崎町土合本町1-9108-2
TEL 0479-48-4111

中村 光孝 横浜市総合リハビリテーションセンター
〒222 神奈川県横浜市港北区鳥山町1770
TEL 045-473-0666

林 敬一 聖路加国際病院
〒104 東京都中央区明石町9-1
TEL 03-3541-5151

丸山 隆生 湘南第一病院
〒252 神奈川県藤沢市湘南台1-19-7
TEL 0466-44-7111

吉野 正昭 平塚共済病院
〒254 神奈川県平塚市追分9-11
TEL 0463-32-1950

和田野 安良 茨城県立医療大学科学センター
〒300-03 茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2
TEL 0298-40-2278

事務局日誌

平成7年10月27日 常任幹事会（東、石名田、大井、大森、河端、関、村瀬）

12月2日 幹事会

臨時総会

平成8年1月18日 日本整形外科勤務医会幹事会
（東、石名田、大井、大森、大谷、河端、司馬、蓮江、山浦、山田）

大阪 ロイヤルホテル

3月1日 31号原稿出し。

3月7日 事務局引継ぎ。

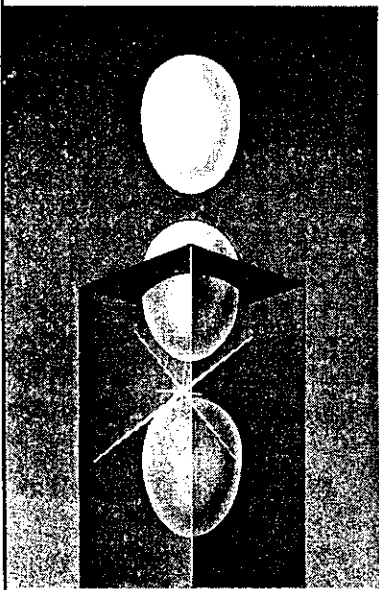
編集後記

一般国民が知らぬ間に、大変な不経済活動が進行中であつたわけで、憤りを通り越してむしろやるせない気持ちである。その桁外れの額に比べて、低医療費政策下に悩む医療施設の赤字額のなんと微々たるものか。このほうは消費税はしっかり取られても税金による穴埋めはない。大蔵省の高級官僚の税金逃れも、ガラス張収支で源泉徴収される我々としては、もう真面目にはやってられない気持ちにもなる。オウムにしる住専問題にしる何か世の中がおかしくなってきたようだ。

平成元年に会報第12号を出して以来、今回の31号で事務局は移転となるが、今後とも新事務局にご協力をよろしく願ひしたい。

現代呼吸皮膚経

住友製薬



Inteban® Catlep®

住友製薬の外用NSAIDシリーズ

インテバン® クリーム
外用液
貼付剤 カトレップ®

NSAID : nonsteroidal antiinflammatory drugs

- 一般名 インドメタシン
- 効能・効果
下気疾患並びに症状の鎮痛・消炎
筋肉痛、肩関節周囲炎、外傷後の腫脹・疼痛、
腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎（テニス肘等）、変形性関節症
- 用法・用量
（インテバンクリーム）
症状により、適量を1日数回患部に塗抹する。
（インテバン外用液）
症状により、適量を1日数回患部に塗布する。
（カトレップ）
1日2回患部に貼付する。

使用上の注意

1. 一般的注意（インテバンクリーム・外用液、カトレップ）
（1）消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
（2）皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に投与すること。
（3）慢性疾患（変形性関節症等）に対し本剤を用いる場合には薬物療法以外の療法も考慮すること。また患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。

2. 次の患者には使用しないこと
（インテバンクリーム・外用液）
本剤に対して過敏症の既往歴のある患者（カトレップ）
本剤又は他のインドメタシン製剤に対して過敏症の既往歴のある患者
3. 副作用
（インテバンクリーム・外用液）
皮膚：ときに痒疹、発赤及び発疹が、また、まれに熱感、腫脹、乾燥感及びヒリヒリ感が見られることがある。これらの症状が強い場合は使用を中止すること。
（カトレップ）
皮膚：ときに痒疹、発赤、発疹、ヒリヒリ感及び腫脹が見られることがある。これらの症状が強い場合は使用を中止すること。

■その他の使用上の注意、取扱い上の注意等については、添付文書をご一読ください。
カトレップ製造元 帝國製薬株式会社

薬価基準収載

資料請求先

住友製薬株式会社

〒541 大阪市中央区道修町2丁目2番8号

住友製薬

ボーンセラムP

骨補填材

BONECERAM-P

承認番号62日第1201号

バイオフィUNCTIONALな機能設計に基づいて
製造されたハイドロオキシアパタイトです。

■特徴

1. 骨動態学的特性を有しています。
2. 生体適合性が優れています。
3. 生物学的安全性が認められています。
4. 力学的強度が優れています。
5. 臨床的有用性が認められています。

■性能、使用目的、効能または効果

骨または関節手術における骨補填。

■使用上の注意

1. 本品使用の際は、無菌的に取り扱うこと。
2. 本品は滅菌済包装してあるので、手術直前に開封し、すみやかに使用すること。
3. 開封したものは再使用しないこと。
4. 本品は、できるだけ清潔な場所で保管すること。
5. 高度の荷重がかかる関節面の直下などにおける本品の単独使用は避けること。

■使用方法

採骨部位または骨欠損部位に、予め生理食塩液に浸漬した成形加工品または顆粒を、充填又は補填する。

製造元

住友セメント株式会社

東京都千代田区神田美土代町1番地

販売元

住友製薬株式会社

大阪市中央区道修町2丁目2番8号

連絡先 住友製薬株式会社 診断薬機器部

〒541 大阪市中央区伏見町2丁目1番1号 TEL.(06) 229-5649
〒101 東京都千代田区神田駿河台3丁目11番地 TEL.(03)5280-6643
〒980 仙台市青葉区中央4丁目6番1号 TEL.(022)261-2651
〒450 名古屋市中村区那古野1丁目47番1号 TEL.(052)562-2855
〒812 福岡市博多区博多駅前1丁目2番5号 TEL.(092)431-6671